

環境・くらしワーキンググループにおける主な意見

発言要旨	WG_No	委員
施策１：犯罪・事故のない安全・安心な地域の実現		
方向性① 防犯意識の向上と防犯活動の推進		
◆様々な機会を活用した防犯情報の提供 - 防犯意識向上のための個別訪問は非常に有効であり、特に高齢者にとって警察官を装う詐欺対策につながる。 - ペットの遺棄や外来種の放流、不法投棄など、犯罪と認識されにくいルール違反に対する意識向上も重要であり、環境・くらしの政策間の連携が必要である。 - 高齢者向けに、警察署からの定期的な訪問とチラシの配付のほか、最新の詐欺情報や出前講座の実施等の情報があると良い。 - 若者向けに、短い動画の配信により広報するなど、高齢者や若者双方に発信することが重要である。 - 防犯情報誌をなるべく多くの人の目に触れるようにする必要がある。 - 表彰された防犯功労者の活動をチラシに掲載してはどうか。 - 詐欺の手口を実際に体験し、学ぶ機会があると良い。 - 高齢者に対し、交番からのチラシ等で最近の詐欺の手口などをリアルタイムで発信すると良い。	2 2 2 2 2 2 2 2	石川委員 名取委員 石川委員 石川委員 西野座長 石川委員 石川委員 西野座長
方向性② 犯罪被害者等への支援		
◆多機関ワンストップサービスの運用による支援の強化 多機関ワンストップサービスを効果的に進めるため、まず警察に相談しやすい環境を整えるべきではないか。	1	西野座長
方向性③ 交通安全対策の推進		
◆交通安全意識の醸成 - 若者はネットや、短い動画を見る傾向があることから、周知啓発に当たり、特に、交通事故の悲惨さを伝える映像の活用など、若者と高齢者で情報伝達媒体を分けるべきではないか。 ◆自転車の安全利用の促進 - 自転車ヘルメットの着用促進について、高校生は見た目を気にするため、おしゃれなデザインや髪が乱れにくい構造のヘルメットが必要ではないか。また、入学時の割引もあると良い。 - 自転車の安全利用について、特に高校生のヘルメット着用率向上の工夫や、自転車専用レーンなど安全な走行環境の整備が必要ではないか。 - インフルエンサーを活用し、ヘルメット着用のイメージアップを行ってはどうか。 - ヘルメット着用のイメージアップ動画の閲覧数を増加させるため、有名人の起用やハッシュタグの活用が有効である。 - 既にヘルメット着用している人が着用しやすい環境づくりが重要である。学校でのヘルメットの置き場所の確保などを学校側と協力することで、説得力が上がるのではないか。	1 2 1 2 2 2	石川委員 石川委員 名取委員 西野座長 石川委員 名取委員

発言要旨	WG_No	委員
方向性④ 自立した消費者の育成と消費者被害の防止		
◆被害防止に向けた消費者教育の推進 高齢者はテレビや新聞等で情報を得ている一方、若い方はテレビをあまり見ずInstagram、TikTok、YouTubeなどの短尺動画やネットの情報を見ている。情報発信においては、ターゲットを分けて行うべきである。 被害に遭う方のほとんどは、自分には関係がないと思っており、正常性バイアスを打ち破るメッセージが重要である。「怪しいと思ったら電話を切る」ではなく、「誰でも被害に遭う可能性がある」という視点での啓発が必要ではないか。 防犯意識向上のための個別訪問は非常に有効であり、特に高齢者にとって警察官を装う詐欺対策につながる。(再掲) 高齢者向けに、警察署からの定期的な訪問とチラシの配付のほか、最新の詐欺情報や出前講座の実施等の情報があると良い。(再掲) 若者向けに、短い動画の配信により広報するなど、高齢者や若者双方に発信することが重要である。(再掲) 防犯情報誌をなるべく多くの人の目に触れるようにする必要がある。(再掲) 高齢者に対し、交番からのチラシ等で最近の詐欺の手口などをリアルタイムで発信すると良い。(再掲)	1 1 2 2 2 2 2	石川委員 西野座長 石川委員 石川委員 石川委員 西野座長 西野座長
方向性⑤ 総合的な雪対策の推進		
◆地域における除排雪活動の連携 除雪ボランティアに学生が参加できるのは、地域との交流機会にもつながり良い取組である。	2	名取委員
◆安全対策に関する啓発の強化 高齢者に多発している雪下ろし中の事故は、高齢者に命綱の必要性が浸透していないように思われ、それを含めた安全対策の意識啓発の強化が必要である。 屋根に上らずに雪下ろしができるような装置の開発や、その導入への助成を検討してはどうか。 屋根に熱線のような物を入れる装置などに対する補助があると良い。 現在実施している啓発活動が、実際に雪下ろしを行う人に届いているか疑問であり、より目立つ工夫が必要ではないか。	2 2 2 2 2	西野座長 西野座長 石川委員 西野座長

発言要旨	WG_No	委員
施策２：快適で質の高い生活環境の実現		
方向性① 食品の安全・安心に向けた衛生管理の推進		
◆食品事業者によるHACCPの導入や定着等への支援 小規模な企業などはHACCPに則り衛生管理を行うとお金がかかるが、どのような対策を行っているか。 ・ また、安全・安心な食の提供には、様々な方が尽力しているがあまり見えづらいことから、食品安全の「裏側」にある努力(見えない努力)を見せる啓発が必要ではないか。 ・ 秋田の食文化や酒造りなど、地域に根ざした衛生管理の重要性を伝えるべきである。	1 1	石川委員 石川委員
方向性② 生活の安心を支える生活衛生関係営業者への支援		
◆生活衛生関係営業者への支援 ・ 生活衛生関係営業の担い手確保として、現在の中高生対象から、さらに小学生の段階からの職業への興味付けはどうか。	1	西野座長
方向性③ 動物の愛護と適正な飼養の推進		
◆動物愛護の意識啓発の推進 ・ 猫の適正飼養について、依然として収容頭数が多い現状に対し、多頭飼育崩壊や終生飼養放棄の原因、また地域猫活動や野生動物への無責任な餌やりがもたらす問題への啓発などが必要ではないか。 動物園での動物の触れ合いや動物に餌をあげるという行為が、野生動物に餌を与えてしまうことにつながるのではないか。動物園等での動物との触れ合いの場での餌やり教育など、意識啓発が必要ではないか。	1 1	名取委員 名取委員

発言要旨	WG_No	委員
施策３：豊かな自然と良好な環境の保全		
方向性① 豊かな自然環境の保全と自然公園等の利活用の促進		
◆自然環境の保全に向けた県民理解の促進 ・ 生物多様性や自然環境保全について、農林水産業、河川管理など他分野や住民の福祉と連携して取り組むことで現場での活動が促進されるのではないかな。 ・ 小中学生の生物多様性への理解促進のため、地域に住んでいる方から話を聞いたり、実際に自然に接する機会の創出が必要ではないかな。 ◆白神山地の保全や利活用及び環境学習の推進 ・ 通常のガイドに加え、より専門的な「遺産ガイド」のような育成も重要ではないかな。 ・ 白神山地の認知度が低下しているように感じ、定期的な情報発信が必要ではないかな。 ・ 秋田の良い情報があっても、積極的に検索しなければ見つけにくい。自身で探しに行かなくても情報が出てくるような仕組みが必要であり、例えばハッシュタグを活用し、意図しない検索からでも秋田の情報にたどり着いてもらえるようにしてはどうか。 ・ コロナ禍の頃に旅行会社が「自分で行ったつもりツアー」を企画しており、ルートや詳しい情報を盛り込んだ動画を作成するなど、このアイデアを白神山地の情報発信に応用できないかな。 ◆自然公園施設の適正な維持管理の推進 ・ 自然公園の整備は人々が楽しめる施設であることが重要であり、それが利用者の快適性の向上につながるのではないだろうか。また、民間の取組を活発にさせていく取組も重要である。	1 1 1 2 2 2 1	名取委員 西野座長 石川委員 石川委員 石川委員 石川委員 名取委員
方向性② 野生鳥獣の保護管理と被害防止対策の推進		
◆人の生活圏への出没抑制対策の推進 ・ 昔からクマはいたにもかかわらず、なぜ近年、街中に出るようになったのか、クマの市街地出没増加の要因を究明してほしい。 ・ 生物多様性とクマの被害防止は相反する部分があることから、空間的に把握する必要がある。そのためには、地図を用いたゾーニングが必要であり、どのような取組をすべきかを示していくべきである。 ・ クマの管理強化ゾーンの地図化について、地図を使うことで、クマが出没する場所、人々の生活圏、そしてクマが出没すると困る場所などを重ね合わせて視覚化できる。これにより、川のような生態系の連続性とクマの行動を関連付けて考えたり、クマの視点だけでなく生物多様性への影響も考慮したりしながら、より効果的な対策を見つけ出すことができる。また、土地所有者や住民の思惑や関心を調整する上でも、空間的に物事を考えるために地図情報が有効である。	1 1 2	西野座長 名取委員 名取委員
方向性③ 大気、水、土壌等の環境保全対策の推進		
◆大気、水、土壌等の常時監視及び工場・事業場に対する監視指導の実施 ・ 大気・水質の環境保全対策について、現状は良好な状態が維持されており、現在の監視体制を継続していくべきである。	2	石川委員 名取委員 西野座長
方向性④ 三大湖沼の水質保全対策の推進		
◆八郎湖における発生源対策や生態系保全等の推進 ・ 八郎湖について、水質だけでなく、自然環境全体として、また地域住民の文化と結びつけて、より広い視点で効果的な取り組みを考えるべきではないかな。 ・ 市民団体の取組を認知、サポートすることが重要である。また、堤防があって近づきにくい印象があり、雑木の刈り取りをするなど、市民が近づきやすい環境にした方が良い。	1 2	名取委員 名取委員